

未来医療への懸け橋

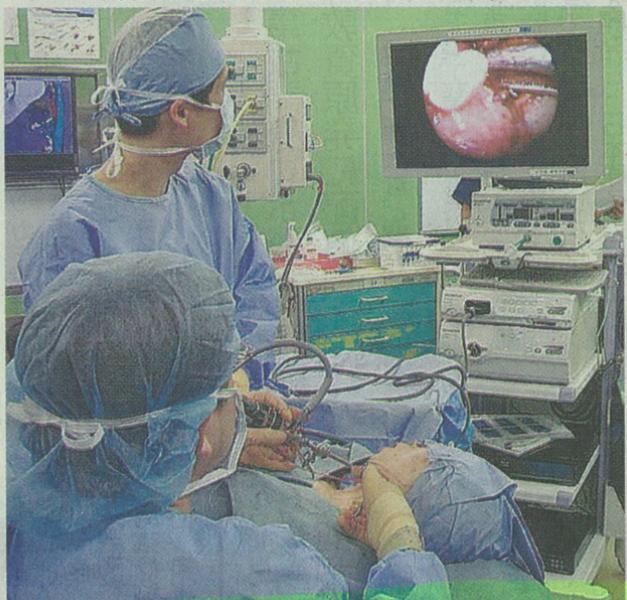
市大先端研究

■14■



岩井俊憲
助教

内視鏡を用いた低侵襲手術の様子



岩井助教は「現在、低侵襲な腹腔鏡手術は多くの病院で行われ、患者の『生活の質』は大きく向上した。しかし、これまでの歯科・口腔外科手術では内視鏡はほとんど導入されていなかつた」と説明する。

岩井助教の専門は内視鏡を用いた低侵襲手術で、これまでに多くの歯科・口腔外科手術を開発してきた。岩井助教の元には、唾液が

優しい歯・口・顎の外科手術」の実現に向けて、専用の内視鏡や身体的な負担を軽減させた低侵襲手術の開発に取り組んでいる。

低侵襲手術

出にくくなる唾石症の低侵襲手術を希望する患者が全

3日の入院が可能になる」という。

国から多数受診。「小さな唾石であれば、細い内視鏡を唾液の出口から入れて内視鏡下に摘出できる。頸下腺ごと唾石を摘出する手術では、5センチから6センチの切開で1週間にから10日程度の入院が必要。内視鏡を使用すれば、岩井助教は「ノートパソコンに接続できる安価な

内視鏡システムの開発」や「トレーニングシステム」としてのバーチャルシミュレ

(歯科・口腔外科・矯正歯科)

〈隔週掲載〉

ーターの開発」を推進。「患者に優しい歯科・口腔外科の内視鏡手術」が普及するよう、早期の実用化を目指している。